



261

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2025年5月4日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



相次ぐ不発弾発見 なぜ？

4日(日)＝総合面

太平洋戦争中に米軍が投下した不発弾が、全国で相次いで発見されています。2024年10月には宮崎空港（宮崎市）で不発弾が爆発し、誘導路が陥没。名古屋市では24年秋以降、中心部の工事現場で計5個の不発弾が見つかり

ました。いずれもけが人は出ませんでしたが、戦後80年を迎える今も私たちのすぐそばに「戦争」が眠っていることを思い知らされます。今後、不発弾にどう対応していけばいいのでしょうか。



不発弾が見つかった名古屋市中心部の工事現場

元競走馬の余生 ワインづくりで充実

4日(日)＝1、3面



茨城県美浦村のブドウ畑で、引退した元競走馬が農機具を引いていました＝写真。調教師の大竹正

博さん（55）は、ある時、馬が耕した畑で取れたブドウを原料としたフランス産のワインを試飲し、おいしさに驚きます。かねて引退馬の余生を考えていた大竹さんは「自分にもできないか」と動きます。

さまざまな人たちがプロジェクトに共感してくれました。高い壁でしたが、みんなで乗り越え、初めてのワインが完成しました。その名は「綴（TSUZURI）」。馬と人との共生の歩みを振り返ります。



論点

高額療養費制度見直し

高額な医療費の患者負担を抑える「高額療養費制度」は、8月に予定されていた負担上限額の引き上げが先送りされました。このような政府の方針が白紙になるのは異例です。見直して経済的な負担が増加するがん患者

ら長期療養者が切実な声を上げ、決定プロセスにも問題が指摘されています。政府は患者も加えた議論を通じ、今年秋までに改めて制度設計を再検討します。必要な視点を識者に語ってもらいました。

7日(水)＝オピニオン面

特集ワイド 産業僧が見た現代社会

8日(木)＝夕刊2面

年功序列が揺らぎ、デジタルトランスフォーメーション（DX）や人工知能（AI）の時代が到来する中、企業で働く人々と対話を重ねる僧侶が東京のお寺にいます。産業医ならぬ「産業僧」として向

き合うのは経営トップやパート社員などさまざま。会社に対し疑問を募らせる若手のZ世代、あるいは変革に戸惑う中高年らの苦しきから見えてくるものとは何なのでしょう。

毎日新聞
新毎日

訪れてみてください。（堀之内浩嗣）

毎日新聞社などが主催する企画展「戦後80年・昭和100年報道写真を読む『1億人の昭和史』から『毎日の昭和写真アーカイブ』へ」が、横浜市のニースパーク（日本新聞博物館）で8月31日まで開催中です。



竹橋の窓辺から
編集後記

